

## C09b 地域における天文学史資料所在の悉皆調査

松尾 厚 (山口県立博物館)

平成14年度(2002年)～17年度(2005年)の科研費・特定領域研究「我が国の科学技術黎明期資料の体系化に関する調査・研究」(通称「江戸のモノづくり」)を契機として、散発的、あるいは特定の種類に集中して行われてきた天文学史資料(モノや文献)についての網羅的な研究が始まった。

我々も山口県での天文学史資料研究の第一歩として、2002年から県内全域にわたる天文学史資料の所在調査を始めた。県内の博物館や資料館等の収蔵目録、教育委員会等の調査目録などの歴史資料目録を、可能な限り漏れなく捜し出し、これらの目録(約150種、総ページ数17,500頁)から、数百点の江戸期およびそれ以前の天文学史関連の資料や古記録を見つけ出した。

これらの資料は、紙本類(暦や古書、古記録など)がほとんどで、モノ(器物)は非常に少なかった。紙本類についても江戸前期(1600年代)以前の資料は僅少であり、今後の資料保存の取り組みが望まれる。また、近代資料についても意識的に保存に取り組まなければ、早晚失われてしまうだろう。

現在では、インターネットで資料目録が検索できそうに思えるが、中小博物館・資料館ではWebページすら持たないところが多く、今でも紙ベースの目録に頼らざるを得ない。また、天文学史資料としての重要性を認められることなく、多数の歴史資料の中に埋もれ、目録化されていない資料も多い。ある地域に限ったとしても、天文学史資料の網羅的な所在調査には大きな困難を伴う。

講演では、本調査の結果を報告するとともに、所在調査を進めるにあたっての問題点について述べる。